

神道の友

『かんなん 艱難汝を玉にする』

管長 菊池重敏



戦国時代に活躍した武将山中鹿之助は、山陰地方で栄えた尼子家の家臣でした。中国地方一帯で絶大な勢力を誇りつつあった大名、毛利家との間で戦を繰り広げ、孤軍奮闘して善戦しますが、ついには毛利氏に破れ国を追われてしまいます。鹿之助は各地の大名に協力

を求めて、尼子家再興軍を結成し、いくら敗北しようとも決して挫ける事なく、何度も何度も毛利軍に挑んで行きました。

そうした苦難の中、鹿之助は三日月に向かつて「願わくは我に七難八苦を与えたまえ」と祈ります。一層の苦難を求めて自分自身を奮い立たせようとしたのです。我々も人生の中で沢山の苦難に出くわします。何でもない苦労が、巨大な黒雲に思えてしまう事も有ります。人生において困った事や悩んでしまう事は、神様が私に与えて下さっている、私の為の試練なのです。

私を鍛えて大きく成長させて下さる、神様の愛情なのです。

しかし、人生に立ちほだかる壁が有って、そこにのみ目を向けると、人生そのものに對して萎縮し、元気を無くしてしまいます。

我が身の不幸を嘆く人は、不幸な所ばかりを見て有難い事に気が付かないのです。どんなに不幸を感じている人でも、多少は幸せな所も有るはずで、その幸せを見つけて、大事に心の中にしまい、見つけた小さな幸せを心の中で大きく膨らませる様にします。私達は、ついつい愚痴や不平を口にしてしまいます。すると、働く事や努力をする事すらも苦痛になってしまいます。苦しい事や辛い

盛夏号
編集・発行
〒106-0031
東京都港区西麻布
4丁目9番2号
宗教法人「神道大教」本局
神道の友編集部
TEL 03-3407-0524
題字 管長 菊池重敏 書

明治 天皇 御製

ちはやふる神のひらきし道をまた
ひらくは人のちからなりけり
おのが身はかへりみずして人のため
つくすぞ人のつとめなりける

事は、神様からの試練と受け取る事が出来たならば、苦難は自分を育ててくれる神様の愛情、お陰として、感謝の心で受け取る事が出来る様に成ります。そうした感謝の心が本当の信心と成ります。

良い事、悪い事と思われる総ての事を神様の御心と受け取り、感謝の心で務めさせて戴く。

有難い、勿体ないと思う感謝と満足の心で、楽しみながら努力をして行けば、必ず幸せな運命が開かれて来ます。

運命は始めから定められていたのでは無く、心の中に思い描いたものを生み出し、創り出して行く事で、人生をいくらかでも良い方向に変える事が出来るのです。

そして、生活をはつらつとさせて、苦難を積極的に乗り越えて行くのです。

神様から与えられた自分の試練は、自分だからこそ乗り越えられる試練で有り、乗り越えられない試練は決して神様は与えられていません。神様は愛情を持って、私達の成長を見守って下さっているのです。

山中鹿之助も、七難八苦は神様の愛情と受け取り、更なる愛情を願ったのではないのでしょうか。「艱難汝を玉にする」と言うことわざは、多くの困難を乗り越えてこそ、立派な人間に成ると言う意味ですので、神様の愛情を素直に受け入れ、自分の人生をしっかり幸せにして行きましょう。

令和五年春季大祭を斎行

大祭前日午前十時、祭員及び東京婦人会有志が弥栄殿広間に集合。管長、総監の挨拶の後、それぞれが担当を手分けし大祭の準備に取り掛かりました。

手慣れた作業にて手際よく準備が進められ、神殿内の壁代や門帳の取り付け、各所に張られた注連縄や紙垂の取り替え、大麻・神籬・御幣・玉串の製作、奉納幟の飾付、祓所の準備等、内外の装いが整い、愈々神饌の盛付けで有ります。伝供で供物が落ちない様に、表裏から見ても美しい様に、真剣に盛付けを行います。

祭具を整え午後四時より儀式の習礼を行い、前日の予定を無事終了しました。

大祭当日四月二十一日(金)は穏やかな春の陽気に恵まれた朝を迎えました。

午前九時、第一鼓の合図と

共に霊殿祭奉仕の祭員が着装に取り掛かります。手水を行い、祭員が整列。第二鼓が打たれ、典儀の号令にて伶人を先導に斎主・祭員祓所へ参進し修祓。第三鼓の合図と共に参拝者の待つ御霊殿へ参進。長元禮典長の開式の辞に始まり、斎主一拝、献饌の儀、幣帛供進



慰霊の舞を奉奏する橋村美樹師・林日奈子師

の儀、斎主祭詞奏上。

次に御霊をお慰めすべく慰霊の舞が穏やかに美しく奉奏され、東京婦人会有志の先生方による神教歌を祭員・参拝者が声高らかに朗々と奉唱されました。次に斎主玉串奉奠、祥月命日を迎えられる御家族並びに参列者が玉串を奉り拝礼、撒饌の儀、斎主一拝と、祭儀は肅々と荘厳に進められ、御霊殿に御奉斎の御霊慰霊の祭りが滞りなく斎行されました。



霊殿祭 祭員一同

参拝者・奉納者芳名録

(敬称略)

幣帛料奉納者

- 【北海道】札幌八幡宮菊池重敏 菊池重忠 函館敬神大教会工藤隆三 工藤賀子 工藤超千 工藤一美 高穂神社澤口廣 原田貴史 村木牧子 梅津一夫 沢木和子 中林鉄夫 中林絹子
- 【青森県】石神神社小野光廣 小野節子 節田志ノ武 佐々木ヒデ 郡川洋子 横濱栄子 小笠原達雄 黒田一二三
- 【宮城県】あかつき仙台分教会堀川秀夫 桂田安子 桂田啓生 桂田雅子 桂田悟
- 【山形県】三山宮宮田博正 宮田楽 出雲太神社菊地元宏 菊地康倫 清光院小教会湯上弘通 清光院小教会信徒会一同 多田悦子 山川信利 岩倉金剛院小教会八幡悟生
- 【福島県】永山和洋
- 【栃木県】出雲大神像観中

- 教会佐藤正美 柴山清 御嶽永野中教会永澤忠彦 永澤正義 歳徳神社板倉進 板倉百合子 板倉さゆり 板倉聖子 高藤神社坪山欣也 坪山仁美 坪山雅則 鈴木一男 福田春光 福富信夫 飯塚まゆみ
- 【茨城県】大熊満
- 【埼玉県】天神大教会富田信太郎 木曾御嶽川越大教会山崎真理 伊藤み代 黒田恵理 深田神社和田直樹 木下博子 佐藤幸雄 西山昌男 渡辺かず子 建沼道夫 岩上直樹 國井高子 岸和子
- 【千葉県】大和八幡神社橋村美樹 橋村敬子 天明道心小教会宮崎日出男 宮崎初枝 石川昌幸 神田恵司 菅野一男 鈴木裕基子 溝口孝恵 市島昭子 稲葉静子 宇田川三恵 沖田毅 沖田基次 古宮茂雄 櫻井嘉津子 塩野悦代 田代恵美子 田代玲子 辻村豊春 二宮義雄 東千鶴子 三浦知子 宮地由美子

昼食を挟み、午後一時からは本殿祭が斎行されました。先ず祓所にて修祓が行われ、黒袍・赤袍・緑袍・斎服・桂と色も鮮やかに華麗に身を包んだ齋主・祭員が参進し、御本殿に着座致しました。長元禮典長の開式の辞に始まり、齋主一拝、開扉の儀、献饌の儀と祭儀は進み、平安朝の絵巻さながら雅やかに伝供の儀が厳かに行われ、一糸乱れる事なく御神前へ神饌が供えられました。次に奉幣の儀が行われ、振幣の儀では一層雅びを加えられました。続いて一同の幣帛料が供進せられ、齋主が春季大祭祀詞を奏上



御本殿へ参進する齋主・祭員

し大神様への報恩感謝と、更なる守護を祈念しました。続いて国家の繁栄と世の安寧を祈り、浦安の舞が橋村美樹先生・林日奈子先生により優雅に美しく奉奏されました。次に参列者を代表して感謝の詞を眞中神社若森秀子先生が奉読され、感謝の誠を捧げられました。次に堤龍一郎先生先導にて、大祓詞・四大信條を祭員・参列者が心一つに力強く奉唱されました。次に齋主玉串奉奠に合わせ祭員座後列拝し、引き続き参列者が順次玉串を捧げ、日常の大神様の庇護に感謝し永代の御守護を祈念致し



献饌の儀

ました。続いて撤饌の儀、齋主一拝、管長より三條の教憲が奉読せられ一同が応答。国歌斉唱・教歌を奉唱の後、祭員の紹介がされ、齋主・祭員が退下されました。再び管長がおでましになられ、御参列の御礼と御講話をされました。コロナウイルス感染拡大規制緩和後の大祭でもあり、大勢の教師・信徒が御参拝されました。全て終了の後には弥栄殿にて和気あいあいと夕刻まで直会が続ぎ、徐々にではありますがコロナ禍前の賑わいを感じられる春季大祭となりました。



三條の教憲奉読する管長

- 山元真一 穴澤光宏 佐藤秀之 花香千春 山元達好 齊藤均 橘俊郎 金井正 横山照美 杉浦裕之 杉浦誠一 木沢明彦 坂井はるひ 今村滋 白川貴朗 前川征男 前川和範 白井光一 石川進 早川ちせ子
- 【東京都】 榛名孝善坊講社 小泉輝人 石大神宮・飯井宮再興祭祀天興大教会 小林宗朝 小林昌代 小林晴比古 白鬚神社品川一夫 栄珠稻荷神社森田瑞穂 永井栄子 良和神社宮内康 井上象英 福谷比砂 雅楽天神会 齋京則子 島田栄造 弓場祥子 松永大介 有馬純雄 有馬利夫 馬場いさ南筭町会 木原桂子 満野恵利 大塚和彦 小林英二 (株)金剛組
- 【神奈川県】 八坂青山御祈禱所 井上直幸 井上壽子 井上八城 八坂宣教所 成井勇吉 成井朝江 成井康雄 高草木恒雄 高草木鎮代 坂本八千代 不二中教会 齋藤和幸 山神宮勝亦健一

- 松野昭男 池田美恵子 大野百合子 瀨瀬司 永田雅俊 島田好子 吉田雅弘
- 【山梨県】 吉田仁六
- 【長野県】 三井雅之
- 【岐阜県】 眞中神社若森正仁 若森秀子 梶原千代 栄不破登 眞中神社教師会 岐阜県教師会 若森真澄 林日奈子 導徳中教会古市文江 小川晴人
- 【静岡県】 駒岳大教会 赤堀睦夫 赤堀邦彦 荒浪仁一郎
- 【愛知県】 八幡天水宮深谷章男 遠藤貴子 桃太郎神社 加藤瀧治
- 【滋賀県】 滋賀米原小教会 吉田善實 平野希久代 山田綾乃 デイズヘアー山田武彦 山田清美 岡野洋子 八軒真澄 藤本晴美 高橋良一 細川源太郎 堂坂とく 石渡美佳 遠藤正範
- 【京都府】 大憲天祖神社 堤龍一郎
- 【大阪府】 木山大教会 村上和徳

- 【兵庫県】 幡州白山神社小畑教子
- 【岡山県】 大山祇神社浦田隆司
- 【奈良県】 うづめ大教会木村剛正 国親小教会早川政弘 大神茅原小教会坂口光三郎 本多恵 岡本忠宣 板垣仁一朗
- 【三重県】 森本英明
- 【高知県】 高知中教院吉良祝人 吉良羊子 吉良典世 東川真也 山本純代
- 【福岡県】 扇森稻荷神社長元祥泰 後藤勇 松崎潤也 石山晴子 寺田勢鶴子 寺田將二 寺田悠甫 永瀬幸子
- 【大分県】 今村文夫 三浦恒良
- 【宮崎県】 藤本陽子 坂イサ 坂義寿 坂和也 小林伸吉 小林孝子 伊藤春代 伊藤章 稀玉麻衣 馬崎玲子
- 【鹿児島県】 黒田茂實 高田宮子

御供物御奉納者 (敬称略)

- 【北海道】 函館敬神大教会 工藤隆三 札幌八幡宮菊池重敏 高穂神社澤口廣 村木牧子
- 【青森県】 石神社小野光廣 石神社教師一同
- 【山形県】 出雲太神社菊地元宏 清光院小教会湯上弘通 岩倉金剛院小教会八幡悟生
- 【埼玉県】 深田神社和田直樹 岸和子 國井高子



御奉納品

【千葉県】 天明道心小教会 宮崎日出男

- 【東京都】 森田瑞穂 赤木瑞彰 松田敏美
- 【岐阜県】 導徳中教会古市文江 若森真澄 林日奈子
- 【京都府】 大憲天祖神社堤龍一郎
- 【兵庫県】 幡州白山神社小畑教子
- 【福岡県】 扇森稻荷神社長元祥泰 寺田勢鶴子
- 【宮崎県】 藤本陽子



本殿祭 祭員一同

祭典奉仕者 (敬称略)

- 齋主・菊池重敏管長
- 典儀・長元祥泰禮典長
- 祭員・堤龍一郎 大熊 満 湯上弘通 菊地康倫 八幡悟生 若森治彦 宮内 康 岩上直樹 宮田 楽
- 浦安の舞 橋村美樹 林日奈子
- 神教歌 永井栄子 若森真澄 伶人・雅楽天神会

この度の春季大祭に際し、連日の準備と奉仕に携われた祭員、教師各位の多大なる御支援を賜り、更に全国の教場長・教師の皆様よりの御神饌や玉串料を御奉納戴き、盛大に春季大祭が斎行出来ました事、厚く御礼申し上げます。

夏越大祓

六月二十一日午後一時より神道大教院月次祭にあわせ御本殿にて、夏越大祓神事が厳かに行われました。古式に則り、齋主である管長が大祓詞を一同に宣聞かせ、一同が応答します。続いて、贖物神事として、形代・切麻・解繩・八針神事を行い、人形に各自の念を込め自身の不浄や禍神の災禍を託し、心身の健全を願いました。



八針神事

九星気学入門

七赤金星

【基本的性格】

よく動き、いつも陽気で朗らか、開放的な性格です。どんな環境にも適応でき、社交性も豊かですから、誰にでも好かれます。

多芸多才で、生まれつき器用な人が多く、目先も大きくタイプ。人受けが良く、早くから目上の引き立てがあるでしょう。機知にあふれ、話し上手、人をそらさないのも七赤金星の特徴です。情報通でもありますが、ただ学びの姿勢を忘れ、口ほどに実行力がともなわないと、お調子者と誤解されるので注意しなければなりません。また、大きな苦労もなく、悦びごとに恵まれる運命のため、つい自惚れ

が強くなり、自分には甘く、人には辛口のお説教をしがちです。口は災いのもと。甘えや軽薄に流れず、粘りと根気を養って人生の幸運をつかんで下さい。

【仕事の特徴】

社交的でビジネス感覚もあり、相手の気持ちを読み取っている確な対応ができる七赤金星生まれは、女房役など有能な人材として一目おかれます。ただ、飽きっぽいところが、若いうちは転職を重ねたり、同じ業界でも会社をかわったり、腰の据わらない人が多いでしょう。たとえ、すぐに才能が認められなくても、地道な努力を続けることで実力が養われ、中期からは仕事運が順調に。交友関係や人脈も広がり、上司や部下、

周囲の人に恵まれます。自分の考えで個性を生かせる芸能・芸術関係の仕事、知性を発揮できる職業に向いているでしょう。

七赤金星の人の適職は、タレント、歌手、ミュージシャン、ショービジネス一般、コピーライター、飲食店経営、栄養士、歯科医、銀行員、税理士、公認会計士、デザイナー、イラストレーター等です。

【恋愛の特徴】

仕事も恋愛も、どちらも楽しみたい七赤金星生まれ。話題が豊富で会話力もあり、人を喜ばせるサービス精神、洗練されたセンス等、生まれる魅力がに異性をひきつける魅力が備えています。老若男女を問わず、社交範囲も広いので、当然、恋愛結婚で早婚の人が多くでしょう。異性に対して、自分がフィーリングを重視する割には、相手には外見や学歴

肩書き、経済力など高い理想を求め、損得の計算も忘れません。

ただし、恋愛にのめり込むタイプで、一度好きになるとその人以外に見えなくなり、理性より感情に走りがちです。

七赤金星の人は、異性との出会いが、その後の人生に大きく影響する傾向がありますから、恋愛は慎重に。結婚も、異性を見る目ができてから、じっくり相手を見極めて選びましょう。

『知っておきたい幸せになれる九星気学入門』
株式会社 神宮館 発行



著者 歴作家
大教正 井上象英

局員を募集致します

神道大教では職員を募集しています。

教場（教会・神社）の後継者や信者・崇敬者の御息など神道大教を信仰する方を募集致します。

奉仕内容は神事奉仕・事務全般。

神事などの祭式は入局後研修を致しますので、未経験の方でも構いません。

また本局で奉仕しながら「國學院大學」へ通学される方も募集しています。

詳細は本局へお問合せ下さい。

九州教区研修会開催

台風が接近する中、天候にも恵まれ去る六月二日から四日迄の三日間、神道大教九州教師会主催第十七期第一回九州教区研修会が、福岡県直方市鎮座の扇森稲荷神社にて開催されました。初日の長元禮典長による基本祭式、神道史の講義では、基本姿勢や所作の指導、神道を学ぶにあたっての概説等、今回初めて参加される受講生にも分かり易く話さ



講師受講生集合写真

れ、現任の受講生も興味深く聴講していました。二日目は大熊典礼が宗教学・祭祀概論を受持ち、主に祓に関する講義がなされました。その後、基本祭式・総合祭式では初日からの復習を織り交ぜながら指導に当たり、受講生も熱心に実習に励んでいました。最終日には受講者全員による「九州教区物故者慰霊祭」が行われ、斎主が慰霊祭詞を奏上、斎主はじめ教区庁長、遺族代表の玉串が奉奠され、各御霊の安寧と教区の発展を祈念申し上げました。引き続き閉講式が行われ、受講生一人一人に修了証が授与され拍手によりお互いを称え合いました。研修の講評と挨拶がなされ、三日間の実り多き研修を無事に終了しました。その後、会場を移し、総会・懇親会が開かれ、来年開催の研修会に再会する事を約束し、和やかな雰囲気の中で睦を深める事が出来ました。

夏季研修会の御案内

○参加条件

現職教師及び本教教師・教場後継者として布教活動を志願する方。初任の方は教場長・現職教師（教師取得年限及び実務経験が五年以上）の推薦を得て、検定委員より許可された方に限ります。

○会場

○日程

【全日過程】

八月二十二日（火）

～二十八日（月）まで

※初任の方は必須です

【前半過程】

八月二十二日（火）

～二十五日（金）まで

【後半過程】

八月二十五日（金）

～二十八日（月）まで

○費用

【全日過程】

受講料 七万二千元

宿泊料 三万五千元

【前半・後半過程】

受講料 四万二千元

宿泊料 二万円

通いの方は、昼食代が別途かかります。（一食一千元）

※都合により受講を途中で終える場合でも、納入費用の差引の返済金は致しませんので御了承下さい。

○申込方法

受講希望者の方は、八月十五日（火）までに、申込書に必要事項を記入の上、送付して下さい。

初任者の方は、履歴書・住民票・証明写真（三五〇mm×四五〇mm）を必ず添付して下さい。

【注】

笏及び衣装類につきましては、本局での準備または、推薦者と御相談の上、各自で御用意下さいませます様、お願い致します。

※尚、研修内容を変更する事もございます

お知らせ

國學院大學より「神道宗教特別選考I期」の入試要項が発表されました。

対象者は、神道系の宗教団体所属者の子女で、将来宗教団体の継承者となる者。もしくは、宗教団体包括下の教会の継承者となる者。なおかつ宗教団体の活動に強い使命感を持ち修学できる者。

○出願期間（消印有効）

令和五年九月二十日（水）

～九月二十六日（火）迄

○選考方法

第一次選考（書類選考）

第二次選考（小論文・面接試験）

※出願要件詳細については、國學院大學ホームページにて御確認下さい。

暑中御見舞い

申し上げます

神道大教本局

管長

菊池重敏

総監

長元祥泰

責任役員一同

大会議議員一同

神道大教院
総代一同

うづめ大教会

教会长 木村剛正

副教会长 木村孝子

〒六三〇一八三三

奈良市中筋町二四一

TEL0742-13112419
FAX0742-1931734

神道大教札幌八幡宮

宮司 菊池重敏

〒〇六一二二六八

北海道北広島市輪厚中央五三二六

TEL011-3773388

FAX011-3774198

ホームページ
https://sapporohachimanu.com

真中神社

宮司 若森正仁

名譽 宮司 若森正道

〒五〇二〇八五七

岐阜市正木三六二一

TEL058-1391380

FAX058-1391394

扇森稲荷神社 宮司

長元祥泰

家内安全・商売繁昌・厄除・八方除・交通安全・病氣平癒・結婚式

初宮詣・七五三・子宝成就・安産・子孫繁栄・学業成就・合格祈願

地鎮祭・竣工祭・上棟祭・安全祈願祭・神葬祭・各種祈禱祭

〒822-0034 福岡県直方市山部 448-1

電話・FAX 0949-22-4972

暑中御見舞い

申し上げます

神道大教

岡本忠宣

〒六三二一〇〇三

奈良市中登美分丘

二一九八一七五

TEL0742-2462561

神道大教 出雲太神社

宮司 菊地元宏

禰宜 菊地康倫

〒九九〇一〇五四

山形県寒河江市高松一八〇

TEL0337-871018

栄珠稲荷神社

宮司 森田和子

〒一五四〇〇〇五

世田谷区三宿一十四一七三

TEL03-33414155

函館敬神大教会

教会长 工藤隆三

〒四〇〇〇七四

函館市松川町二二一六

TEL013-8141735

暑中御見舞い

申し上げます

大教正

井上象英

(神道大教 大会議議員)

神道大教 滋賀米原小教会

水心宮
吉田善實

〒五二一〇〇二

滋賀県米原市米原七〇四

連絡先
TEL06-66910651
自然舎内

天神大教会

教会长 富田信太郎

〒三五六〇〇二八

ふじみ野市西原一八八

TEL049-2612831

三山宮

宮司 宮田博正

〒九九七〇二二

TEL0235-621268

山形県鶴岡市羽黒町手向二五

高天原神社

宮司 金丸夕カ子

〒八八〇〇八七

宮崎市宮崎町八四

TEL0985-271572
FAX0985-281202

暑中御見舞い

申し上げます

高知中教院

院長 吉良祝人
副院長 吉良典世
顧問 吉良羊子

〒七八〇一〇〇四三
高知市寿町三一六
TEL〇八八八二四一二五五
FAX〇八八八二四一七八六七

暑中御見舞い

申し上げます

大会議議員

直属 松野昭男
直属 新海研次

〒二三七〇〇七二
神奈川県横須賀市長浦町二一六六

神道大教

大山祇神社

宮司 浦田隆司

〒七一九一三二二
岡山県高梁市川面町一九五八
TEL〇八六六一二六〇〇五六

暑中御見舞い

申し上げます

香取神社
駒形神社

宮司 齊藤均

(大会議議員)

〒二七二〇〇〇一
千葉県松戸市幸田二一八三
TEL〇四七三三四二二三九四

尺間嶽中教院

天野衆王

〒八七六一〇二二
大分県佐伯市弥生尺間九四六一
TEL〇九七二四六一四二二

清光院小教会

教会長

湯上弘通

〒九九九一三二六三
山形県上山市
軽井沢一―一三三六

榛名神社社家

榛名孝善坊

代表役員 柿添政可
責任役員 小泉輝人

〒三七〇一三三四一
群馬県高崎市榛名山町一〇二
TEL一七五〇〇九二
東京都板橋区赤塚一―一七

大憲天祖神社

宮司 堤龍一郎

〒六一六一八四四
京都市右京区太秦中筋町二―十
TEL〇七五八八六四一六二二

深田神社

宮司 和田直樹

〒三四九一〇一四一
埼玉県蓮田市西新宿一―九八
TEL〇四八七六九一五五五三

普明神社

苗場明道会

松井苗子

松井興太郎

神道大教
あかつき仙台分教会

代表役員

堀川秀夫
鎌田光彦

神道大教

山神宮

宮司 勝亦健一

金刀比羅神社

宮司

杉本富子

〒五〇一三九一四
岐阜県関市鎮物師屋一三十三
TEL〇五七五一三二三四八五
FAX〇五七五一三二三四六三

神道大教 輪輶神社

たたら

高小林正昭

〒二七三〇一三三
千葉県鎌ケ谷市道野辺中央
一―二一十一
TEL〇四七四四三〇〇六六
FAX〇四七四四四九四〇三

暑中御見舞い

申し上げます

神道伊勢月日布教所
大念寺 剛

暑中御見舞い

申し上げます

暑中御見舞い

申し上げます

神道大教

直属 寺田勢鶴子

〒八〇三―〇八一六
福岡県北九州市小倉北区
金田二丁目二一
TEL〇九三―五八三―六一八三

暑中御見舞い

申し上げます

直属 三浦恒良

〒八七〇―〇九三六
大分県大分市岩田町一七―二二
TEL〇九〇―八六六―八七八三

暑中御見舞い

申し上げます

直属 飯田容子

〒四五三―〇〇二一
愛知県名古屋市中村区
松原町一―四三―二

株式会社 美術会館
ギャラリー青 羅(貸画廊)

代表取締役社長
池田美恵子

東京都中央区銀座三―〇―一九
美術家会館
TEL〇三―三五四―一三四八(代)

管長の動向 (対外行事・事務局)

四月 二十二日 責任役員会開催

二十九日 北海道神宮「昭和祭」参列 (管長)

五月 一日 月首祭

十一日 教派神道連合会理事会出席 (管長・大熊部長)

十三日 神道大教四本木稻荷神社月次祭齋行 (管長・菊池主事)

十五日 中旬祭

十八日 岡山県神道大教大山祇神社訪問 (管長・総監)

二十日 百五十年記念事業実行委員会開催 (第四回)

二十一日 月次祭齋行

六月 一日 月首祭

二日 九州教区研修会開催 扇森稻荷神社於 三日間 (総監・大熊部長)

七日 教派神道連合会理事会出席 國學院大學 (管長・大熊部長)

八日 神道講座 國學院大學 (管長他四名参加)

九日 神道講座 三笠宮彬子女王殿下昼食会 國學院大學 (管長出席)

十三日 神道大教四本木稻荷神社月次祭齋行 (大熊部長・菊池主事)

十五日 中旬祭

二十日 会計監査会 弥栄殿

二十一日 月次祭・夏越大祓式齋行

東京都教派神道連合会理事会・懇親会出席 (管長・総監・大熊部長)

三十日 日本宗教連盟評議委員会 ZOOM参加 (管長)

七月 一日 月首祭

十一日 教派神道連合会理事会出席 國學院大學 (管長・大熊部長)

十三日 神道大教四本木稻荷神社月次祭齋行 (管長・菊池主事)

十五日 中旬祭

二十日 百五十年記念事業実行委員会開催 (第五回)

二十一日 月次祭・中元霊祭齋行

第二十三回神道講座 國學院大學にて開催

六月八日・九日に亘り、三笠宮彬子女王殿下を特別講師としてお迎えし、教派神道連合会主催「第二十三回神道講座」が、國學院大學常盤松ホールにて開催されました。テーマは「祓と信仰」。講師は國學院大學岡田莊司名誉教授、笹生衛・加瀬直弥両教授、鈴木聡子准教授、吉永博彰助教。参加者は、古代中世における祓の考え方・祭祀のあり方について学びました。又、今回は神習教・禊教・黒住



笹生衛教授の講義

教・神道修成派・御嶽教の五つの教団教派より「祓の儀式」について実演と映像による紹介もあり、各教派の特徴が非常に伺える内容でありました。



吉永博彰助教の講義



本教代表で修了証を受ける小泉輝人師

創立百五十年記念事業 奉賛者御芳名

五月一日〜六月三十日(申込順)

一金 伍萬円也	有馬純雄殿	一金 伍萬円也	白川貴朗殿	一金 貳萬四仟円也	山本興一殿
一金 六萬四仟円也	坪山欣也殿	一金 貳萬四仟円也	廣澤謁子殿	一金 參萬八仟円也	伊藤み代殿
一金 伍萬円也	坪山仁美殿	一金 參萬円也	佐藤正美殿	一金 參萬六仟円也	山崎真理殿
一金 四萬貳仟円也	坪山雅則殿	一金 四萬貳仟円也	堀本文文殿	一金 貳萬四仟円也	黒田恵理殿
一金 伍萬四仟円也	鈴木一男殿	一金 貳萬四仟円也	今泉淳子殿	一金 伍萬円也	坂井はるひ殿
一金 伍萬円也	福田春光殿	一金 參萬八仟円也	三浦恒良殿	一金 四萬八仟円也	小林正昭殿
一金 四萬八仟円也	福富信男殿	一金 四萬貳仟円也	宮田博正殿	一金 參萬參仟円也	諸橋 孝殿
一金 參萬円也	川野静可殿	一金 四萬貳仟円也	吉良祝人殿	一金 四萬八仟円也	山田綾乃殿
一金 貳仟六百元也	松本節昭殿	一金 七萬円也	吉良羊子殿	一金 四萬四仟円也	山本純代殿
一金 伍萬円也	鈴木啓司殿	一金 貳萬四仟円也	吉良典世殿	一金 參萬六仟円也	佐藤 学殿
一金 參萬參仟円也	石原 稔殿	一金 四萬八仟円也	鈴木照正殿	一金 參萬參仟円也	成井康雄殿
一金 貳萬參仟円也	石川澄子殿	一金 貳萬六仟円也	阿美ツエ殿	一金 參萬六仟円也	成井康雄殿
一金 全	石川恵美殿	一金 壹拾萬円也	和田直樹殿	一金 貳萬六仟円也	成井康雄殿
一金 四萬八仟円也	阿南 充殿	一金 四萬四仟円也	深田敬生殿	一金 貳萬六仟円也	成井康雄殿
一金 參萬參仟円也	碓しのぶ殿	一金 貳萬六仟円也	黒田茂實殿	一金 貳萬六仟円也	成井康雄殿
一金 參萬人仟円也	池田美恵殿	一金 伍萬円也	不二中教会	一金 貳萬六仟円也	成井康雄殿
一金 貳萬六仟円也	三井雅之殿	一金 四萬貳仟円也	信徒会殿	一金 貳萬六仟円也	成井康雄殿
一金 伍萬円也	吉住政博殿	一金 四萬貳仟円也	齋藤和幸殿	一金 貳萬六仟円也	成井康雄殿
一金 七萬円也	森田欣次殿	一金 貳萬六仟円也	齋藤くみ子殿	一金 貳萬六仟円也	成井康雄殿
一金 貳萬六仟円也	飯田谷子殿	一金 貳萬四仟円也	椋澤 覚殿	一金 貳萬四仟円也	成井康雄殿

この度は教師・信徒の皆様より多大なる御奉賛を賜り、厚く御礼申し上げます。尚、掲載金額は特志を含んだ総額となっております。

【神道大教創立百五十年記念事業についてのお願い】

謹啓 酷暑の候 皆様には益々御健勝の御事とお慶び申し上げます。

平素は本局並びに大教院諸行事への赤心なる御奉養を賜り、衷心より厚く御礼申し上げます。

さて、神道大教は明治八年三月二十八日畏くも明治天皇の聖旨を奉戴して「神道事務局」が創設されてより、来る令和六年には創立百五十年の慶節を迎える事になります。この大きな節目に輝かしくも偉大な歴史と伝統を持つ「神道大教」として奉養会を立ち上げ記念大祭と記念事業を行う事となりました。

十月二十一日に祭典を斎行し、記念事業と致しましては、御本殿・御霊殿・弥栄殿・研修会館の補修工事を行いたいと思ひます。西麻布に鎮座する御本殿は昭和三十五年に落成し、六十三年間の風雨に耐え、その様相は今尚威厳を呈しています。しかし乍ら、御本殿外壁に亀裂が生じ今後三十年、四十年の存続を考えますと、損傷が進まない内に亀裂の修理と御本殿の全塗装を行いたいと思ひます。

現在、コロナ禍回復の兆しも見え始めていますが、油断の許さない状況が続いており、異常な物価高の状態の中、皆様へ御負担をお掛け致す事業計画で有りますが、何卒趣旨を御理解下さいまして、創立百五十年記念事業完成の為に御奉養を賜ります様、宜しくお願い申し上げます。

謹白

記

◎神道大教創立百五十年記念事業奉養会要項

- 一、 会の名称 神道大教創立百五十年記念事業奉養会
- 二、 奉養期間 令和五年四月～令和六年十月秋季大祭まで（分納も可能）
- 三、 記念事業及び予算概要
 - ① 神道大教院御本殿の外壁全塗装 及び御本殿・御霊殿・弥栄殿・研修会館の補修工事 【二、〇〇〇万円】
 - ② 記念大祭費（記念誌含む） 【一、五〇〇万円】
- 四、 御奉養目標額 一金 二、五〇〇万円也

※教師・崇敬者・信者の皆様には甚だ恐縮に存じますが、お心をお寄せ戴き、記念事業成功に向け御尽力、御支援の程お願い申し上げます。

寄付者芳名は境内芳名板他「神道の友」紙上にて随時御掲載致し、御奉養を称えさせて戴き、また、記念大祭斎行に併せ特志者への表彰状の贈呈を考慮しております。

教内異動

【教師昇級】

- 補 権少講義 福岡・松崎潤也 (令和五年六月四日付)

【辞職者】

- 愛知 直属 権中講義・久野美弘 (令和五年四月三十日付)

- 愛知 直属 権訓導・夏目和樹 (令和五年四月三十日付)

- 兵庫 日笠山八雲大教会(属) 中講義・生嶋絹子 (令和五年五月二十三日付)

- 高知 直属 中講義・大野繁延 (令和五年六月二十日付)

【帰幽報告】

次の先生の帰幽の報に接し生前の御奉仕、御活躍を称え、謹んで哀悼の意を表します。

- 令和五年四月三日帰幽 岐阜・光仲中教会(属) 訓導 大野幸子師

※令和五年六月三十一日現在 (敬称略)

菊池管長の教場訪問

神道大教大山祇神社

管長の教場訪問も第十九回目と成りました。

今回は、岡山県高梁市川面町一九五八番地に鎮座する神道大教大山祇神社に長元総監と共に教場訪問をしました。

昭和十年に初代 ひとつゆみなきせいお 一柳誠男先生が、昭和十年に北九州市戸畑区新池一丁目六一七に「神道大教大山祇大教会」を設立しました。一柳教会



御神門



御神殿外観



御神殿正面



御神前内部

長は、神道の教化活動に専念され、数多くの信者を教え導かれ、昭和五十年三月の「開簾三十年記念大祭」には、千名を超える信者が参拝され盛大な祭典を斎行されました。この記念大祭を期に、高齢となられた一柳教会長は、奥様の一柳せつ子先生を後継者として引退されました。

その後、一柳せつ子教会長も高齢の為、浦田久子先生に後継されました。浦田久子先生は、昭和二十九年から、岡山県高梁市川面町に鎮座する、「神道大教大山祇岡山支教会」の教会長を務められており、昭和五十年七月に、「大山祇大教会」に名義と法人住所を変更されました。

浦田教会長は、平成十一年から三年を掛けて、総工費三億円の大規模な御神殿新築事業を立派に完成されました。

平成十三年五月には「宗教法人神道大教大山祇神社」と名称を変更。一千人以上の信者を教え導かれ、盛大なる神社活動を展開された浦田久子宮司は、平成二十年八月二十九日に八十九歳の激動の人生を閉じられました。

神社後継者に予定されていましたが、長男の浦田善先生が御病気の為先立たれていましたので、甥の隆司先生が宮司を継がれました。

四代目浦田宮司は、先代が残された多くの信者の育成や神社護持に日々御精進されています。昭和五十四年に国立音楽大学声学部を卒業され、声楽歌手として多くの教え子を育てられています。

神社宮司として、又、声楽歌手として精力的に御活躍



左から長元総監・浦田宮司・管長

されています。

浦田宮司は、大会議議員、総代として神道大教の発展に御寄与下さっています。今後も益々の御発展と御活躍を期待致します。